

## 蠟梅 Now

この時期になると、あたかも年中行事のように台風とその被害の状況が話題になる。台風26号は10月16日、伊豆諸島北部を通過、伊豆大島の三原山の外輪山中腹が幅約950mにわたって崩落し、土石流が発生した。被害は長さ約1,200m、範囲は約114万m<sup>2</sup>に及んだ。複数の集落を飲み込み、31人が死亡、13人が行方不明となっている（10月24日現在）。

大島では（24時間に）800mmの雨が降ったというのに、町から川が氾濫したという防災無線は発信されたが、避難の指示や勧告は出されなかった。なぜ避難を呼び掛けなかったのか、その対応に疑問が投げかけられ物議を醸している。

遡って、7月以降、太平洋高気圧とチベット高気圧の強まりによって、西日本を中心に全国で暑夏となった。高知県四万十市では日最高気温が41.0℃となり記録を更新した。太平洋高気圧の周縁を吹く暖かく湿った空気が流れ込んだ日本海側ではたびたび大雨となった。

人間の活動が誘発あるいは悪化させているかも知れない異常な自然現象の頻発。人類に対する警告なのかもしれない。

### フェニックスの如く、がんばろう 日本！

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、例年になく暑さが厳しかった夏を滞りなく乗り切り、11月も間近になると、さすがの残暑も影を潜めたかのようで、蠟梅にもほっとした様子が窺える。

厳しい環境の中でも、来る開花への備えに怠りはないようで、体力づくりに欠かせない青葉を存分に繁らせている。やむなく剪定せざるを得なくなり、枝ぶりはコンパクトになったが、幸い悪影響は見られないようである。

実生からの蠟梅2世の五つ子の一鉢は、生誕地に別れを告げ、日常のお世話になっている方の家にもらわれていき、新たな人生を歩んでいる。残る4鉢は幼顔が影を潜め、逞しくなってきたようである。無事に越年し、更なる成長を願う。



2013年3月に下記へ移転しました。

#### 《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸  
事務局長 大森 信

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 2-2-4

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ffk.or.jp

URL : <http://www.npo-ffk.or.jp>